

ケナフ（KENAF）について

ケナフ[H.cannabinus]はアオイ科(Family Mavaceae)、フヨウ属(Hibiscus L)の実生の1年生の栽培植物で、原産地は西アフリカといわれ、インド・タイ・マレーシア・中国へとの南方ルートと、タシケントを經由した北方ルートがあり、亜熱帯。温帯の広い範囲で栽培が可能である。然しながら温度と日照時間の関係で、生育可能な範囲は、中国では吉林省・日本では南部北海道・アメリカ大陸では中南部で、日本では鹿児島南部を除いて採種が困難である。

播種用の種子はアメリカではメキシコで、中国では広東省や海南島で採種されている。北半球では4・5月の地球が20 以上になったら播種し、秋に開花、11月から翌年3月までに収穫するのが常であるが、ベトナム南部からインドネシアでは露地で2期作が可能である。

アメリカでは、南部の大農場地帯の農産物価格の安定と、当時の木材価格の高騰の状態から、木材に変わる紙用に適した作物の研究を計画し、農務省が27年間を費やして研究を行い、すべての植物の中から経済的・品質的に一番優れた作物としてケナフを選出し、中間実験として数万部のケナフ紙の新聞も発行され、毎年 American Kenaf Society の年会が開かれていたが、食材価格の高騰などにより、ここ暫くは農民の関心は大豆や玉蜀黍に向けられている。

紙パルプの資源問題の将来を見越しての、非木材ケナフパルプの開拓的膨大な研究成果が生かされるかの鍵は、これから深刻さを増す環境問題かもしれない。